

プロモーション活動

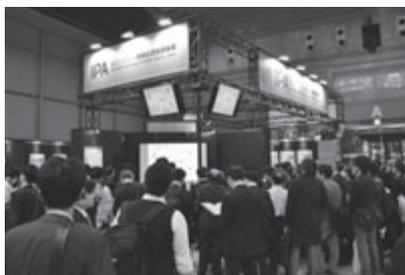
SEC プロモーショングループ 佐藤 康彦

IPA ではソフトウェアの信頼性、安全性に関する事業成果を、技術者層及び経営層に向けて、展示会、イベントへの出展、セミナーの開催などにより、普及・啓発活動を行っている。

1 展示会への出展

事業成果普及の一環として、一般社団法人組込みシステム技術協会の主催により7月12日、13日に大阪で開催された組込み総合技術展関西 (ETWest2017)、及び11月15日～17日に横浜で開催された組込み総合技術展 (ET/IoT2017) に出展し、パネル展示、資料配布及びセミナーを実施した。展示では近年普及が進むIoT機器・システムの安全性確保を推進する「つながる世界の開発指針」や「組込みソフトウェア開発データ白書」「STAMP/STPA」に関する関心が高かった。

両展示会でのIPAのセミナーは、産学界からの著名な講師の講演が聴講できると例年好評であり、2017年度も多くの来場者に聴講いただいた。ET/IoT2017では展示会開催日に合わせて「組込みソフトウェア開発データ白書2017」を発行し、同白書の活用など定量的管理を推進するセミナーを実施した。また、IT系の若手ベンチャー企業代表によるIoT・AIをテーマにしたトークセッションも注目を集めた。そのほか、IPAの成果物を解説するブースプレゼン、ITの先端技術を有識者がコンパクトに紹介する先端技術入門ゼミも、連日多くの聴講者で賑わった。



ET/IoT 2017 IPA ブース

2 イベントの共催

ソフトウェア関連学会や団体が実施するイベントの共催、出展を行っている。2017年11月にはSTAMPに関する国際会議、「第2回STAMP Workshop」を開催した。STAMP Workshopは米国、欧州で毎年開催されているが、日本では2016年度の福岡での開催に続き、慶應義塾大学(東京)で第2回目を開催した。Workshopでは欧米での適用事例の紹介に加え、IPAからは2018年3月に公開となったSTAMP支援ツールであるSTAMP Workbenchの紹介も行った。また、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)と共催しているクリティカルソフトウェアワークショップ(WOCS²: Workshop on Critical Software System)も2017年度は同会場で続けて開催し、両イベントのシナジー効果を狙った。

同じく11月には特定非営利活動法人横断型基幹科学技術研究団体連合(横幹連合)との共催で、複雑化する現代社会で重要性を増すシステム化への理解と推進を目指して「システム・イノベーション」シンポジウムを開催し、産学官の有識者によるディスカッションを行った。



「システム・イノベーション」シンポジウム

3 セミナーの開催

ソフトウェアの信頼性、安全性に関する技術の普及・啓発のため、首都圏のみならず、地域団体や民間団体と連携し、事業成果をテーマに職員や外部有識者を講師としたセミナーを実施している。

2017年度は東京で36回、地域で7回、計43回のセミナーを開催し、2,335名の方に参加いただいた。セミナーのテーマとしては、ソフトウェア開発で大切とされる「上流工程」強化の取り組みに関するものを10回開催(参加者637名)、「IoT推進」に関するものを6回開催した(参加者469名)。また、「STAMP」に関するセミナーも3回開催し、251名の参加者を得た。

また、日本のソフトウェア産業は首都圏に集中しているため、IPAのセミナーも首都圏に集中していたが、地域でも首都圏同様のセミナーの開催を要望される声もあり、近年地域でのセミナーの共催あるいは講師の派遣にも力を入れている。

4 成果物のダウンロード、購入

当機構の報告書などの事業成果はIPA Webサイトからダウンロードができる。また発行書籍に関しては直販、amazonによる通販での購入が可能となっている。書店によっては取り寄せも行っているので詳細はお近くの書店にお問い合わせいただきたい。

2018年度はIPA第四期中期計画がスタートし、当センターも昨今の急速な変化を続けるIT社会の動向に対応すべく、社会基盤センターとして活動を開始した。今後は更に社会動向、業界ニーズに呼応した活動の普及推進に向けた取り組みを進めていきたい。